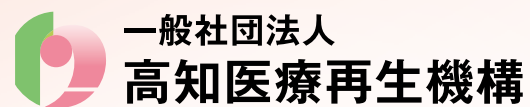


高知医療再生機構

Ver.4

*Kochi Organization for
Medical Reformation and Renewal*



一般社団法人
高知医療再生機構

医療再生事業部

〒780-8570 高知市丸ノ内1-2-20 高知県庁本庁舎4階
TEL 088-822-9910 FAX 088-855-5881

予防医学ネットワーク事業部 研究支援事業部

〒783-8505 南国市岡豊町小蓮185-1 高知大学岡豊キャンパス内
TEL 088-880-2223 FAX 088-880-2721

ホームページ <http://www.kochi-mrr.or.jp/>
E-Mail info@kochi-mrr.or.jp

- 医師、医療スタッフのご家族からのご連絡もお待ちしています。
- 賛助会員を募集しています

高知医療再生機構では、機構の趣旨・活動にご賛同いただき、協力いただける賛助会員を募集しています。高知県の医療環境を充実させ、より多くの医師に高知県の病院を選んでもらう活動に、ぜひともお力添えをいただけますようお願い申し上げます

賛助会員

- ◎個人 一口当たり年額5千円として一口以上
- ◎団体 一口当たり年額3万円として一口以上
- ◎特別 150万円以上

入会につきましては、機構医療再生事業部までお問い合わせください

“Here we are!”



日本一のキャリア形成サポート県

日本で一番手厚いキャリア形成サポート 高知家が全力でサポートしています

高知県

県全体の医師確保対策について企画立案、予算確保、医師養成奨学金貸付などを行う

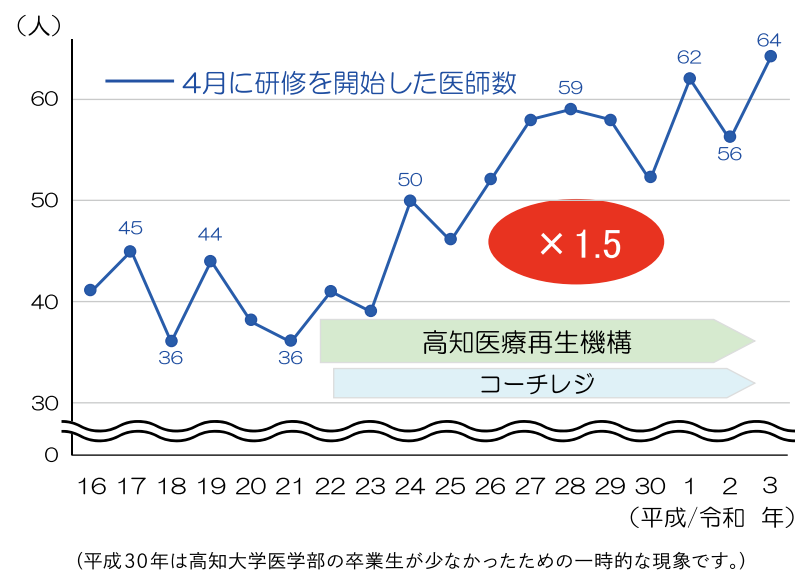
高知地域医療支援センター

地域医療機関への医師の適正配置の調整と、医師にとって魅力あるキャリア形成の体制づくりを行う

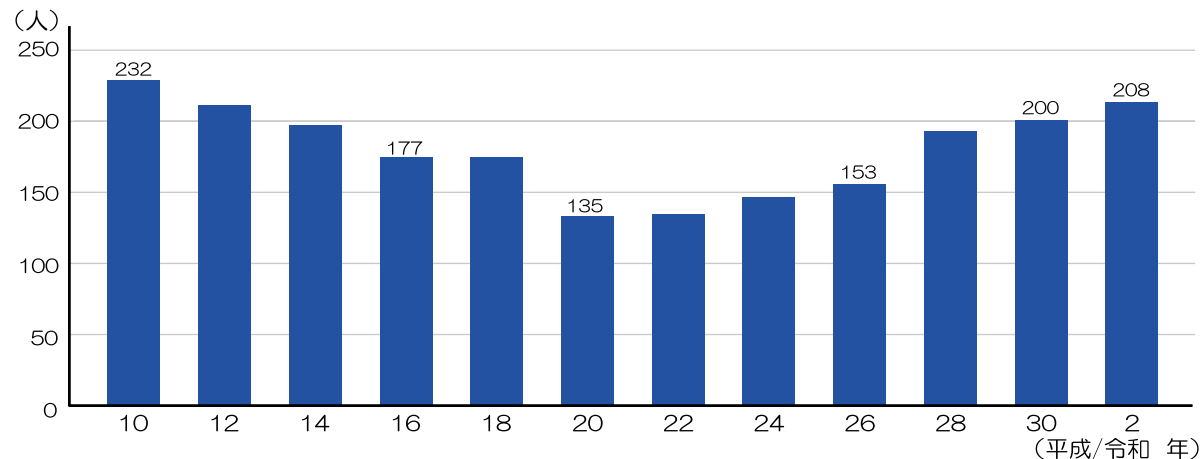
高知医療再生機構

若手医師のキャリア形成、県外からの医師の招聘および赴任の支援、高知大学、県外大学との人材交流などを行う

高知県 臨床研修開始医師数



高知県 30歳未満の医療施設従事医師数



ご挨拶

研修開始医師数と若手医師数の推移をご覧になって、どのようにお感じでしょうか。高知医療再生機構のパンフレットもVol. 4となります。スタート (Vol. 1:平成22年) はまったく先の見えない荒波のただ中、Vol. 3の時点でも「このまま行けるのだろうか」という不安がありました。しかし、どうやら日本で一番手厚いキャリア形成サポート県を目指す試みは、高知が好きな医学生・医師のみなさんに「本物」と見極めてもらえたようです。基礎は整いました。



理事長 倉本 秋

このような動きは、日本全国、どの道府県でも起きているという訳ではありません。行政や大学、医師会など、医療を取り巻くキャストが一体となれるところだけに起きる現象です。そして、配役の中に県民が占める役割も大きいと思います。住民サイドから見たとき、医療は提供されるだけのものに見えがちです。しかし、高知県民は確実に、暖かく医師を育てています。その温もりがないと、施策だけでは医療現場の成長にたどり着けないからです。令和元年の暮れから、新型コロナウイルス感染症の猛威が世の中を覆っています。すべての人に閉塞感をもたらす疫禍は、医師に対しても研鑽の機会 (学会参加、留学等) を削ぐ、キャリアアップの大きな妨げです。自分たちの未来を自分たちで作ろうとする高知の若手医師たちの資質の上に、これからも学びの機会を提供し続けることが、明日の高知の医療、県民の健康に直結します。

I. 医療再生事業部

医学生のために「きっかけは自分で創る」

- ① 医学生地域医療実習支援 P3
- ② 研修病院見学支援 (学生) P3
- 参考: 奨学金で有意義な学びを! P3
- ③ 奨学金受給医師のフォローアップ P4
- ④ SEEDとBRIDGE P4

研修医・専攻医のために「研修は自分で創る」

- P5 ① 研修病院見学支援 (研修医)
- P5 ② 臨床研修医確保支援
- P5 ③ 地域医療研修プログラム運用支援
- P5 ④ 地域医療研修者支援
- P6 ⑤ 専攻医等に対する奨励金支給
- P6 ⑥ 医師留学支援 (専攻医等特別枠)
- P6 ⑦ ブルーオーシャンの活動支援 (コーチレジ)
- P6 ⑧ メンタルヘルス

医師のために「未来は自分で創る」

- ① 専門医等養成支援 P7
- ② 高知家総合診療専門研修プログラム P7
- ③ 指導医資格取得支援 P7
- ④ 医師留学支援 (海外等) P7
- ⑤ 地域医療研修指導医支援 P8
- ⑥ 地域赴任医師研修修学金貸与 P8
- ⑦ 高知県臨床研究フェロシッププログラム P8
- ⑧ 新専門医制度対応倫理文化醸成支援 P8
- 参考: 医療再生事業 補助事業実績額の推移 P8

医療専門職のために「高知で輝く」

- P9 ① 医療専門職無料職業紹介
- ステップ1 病院とのマッチングと就労支援
- ステップ2 サポートと多様な雇用形態
- P9 ② こうち医師ウェルカムネットの運営
- P9 ③ 地域赴任医師研修修学金貸与
- P10 ④ 女性医師等復職支援
- P10 ⑤ 医療勤務環境改善支援センター
- P10 ⑥ 認定看護師資格取得支援
- P10 ⑦ 看護職員・医療スタッフ研修派遣支援

II. 予防医学ネットワーク事業部

- ① 医療・保健情報の集計・解析 P11
- ② 画像診断支援サービス P11
- ③ 看護ニーズへの対応 P11
- ④ 高知県救急医療情報連携システム P11

III. 研究支援事業部

- P12 ① 認証型web申請・審査システム (レビサボ)

高知医療再生機構にも歴史が出来ました

- ① 医療再生事業部 P13
- ② 予防医学ネットワーク事業部 P13
- 研究支援事業部

高知で働くために「高知家をもっと知る」

- P14 ① こうちの医療RYOMA大使
- P14 ② 情報と連絡先

医学生のために 「きっかけは自分で創る」

1人あたり6万円以内を助成

◎この事業は、原則として高知県医師養成奨学貸付金を受給している県外の医学生を対象としていますが、高知県の地域医療に強い関心を持つ医学生のみなさんもお問い合わせください。



基幹型臨床研修病院と地域医療研修協力施設

1人あたり1泊1万円(3泊まで)を助成

高知県内での臨床研修を考えている県外の医学生のみ
さんが、研修病院を実際に見て、知っていただくために、高
知県内の 8 か所の基幹型臨床研修病院のうち 2 か所以上
見学する場合に助成しています。

首都圏の大学医学部
平成31年8月に利用



病院見学は非常に有益ですので是非お勧めしたいですが、費用が障壁で気が進まないのも事実です。この事業はそんなストレスを払拭してくれると思います。複数見学は負担かもしれませんが、高知県では県内全域の基幹型臨床研修病院を跨いで研修できる制度がありますので、各病院の特色を掴み、いろんな先生に出会えるメリットもあります。ちなみに私は高知の幸を満喫して、その魅力に惹かれてしまいました！

参考：高知県の医師養成奨学貸付金について

奨学金で有意義な学びを！

高知大学医学部の地域枠入学の学生は、大学の修学期間中、奨学金を受給することになっています。また、一般入試、AO入試、学士編入のみなさんも1年生から、そして途中からでも奨学金を受給することが可能です。

●臨床研修を修了して残る7年の要件勤務年数は、修了後13年のうちに終えればよいことになっていたものを15年に延長する。(猶予期間を長くすることは、国内外の先進的な医療を学ぶ留学等に行きやすくするために、できるだけ早く償還免除となるように配慮する)



高知県医療政策課
～医師を目指す方への奨学金

<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/131301/2017032800308.html>

機構はこのうち、卒後3年目以降の医師（令和3年度）を中心にフォローアップ面談をお手伝いしています。

受け身でない、またフォローアップ体制の整った奨学金制度が運用される中で、高知大学医学部生が、連携と次世代育成のために主体的に動き出しました。それがSEEDとBRIDGEです。スタートはそれぞれ平成23年と27年です。



SEED代表
竹森 菜咲さん

SEEDは高知県医師養成奨学貸付金を受給している学生や、受給した卒業医師からなる団体です。将来高知県で一緒に働くことになる仲間とともに地域医療実習を行ったり、交流会を行ったりして、在学中から学生同士のつながりを作ることができます。高知の医療にシード権を持っている、高知の医療の種(=SEED)が将来、花を咲かせて、自ら種を蒔けるように取り組んで参ります！

BRIDGE代表
西山 典寛さん

BRIDGEは、学生が医学教育へ主体的に関わる場を作るために生まれました。時代と共に医療を取り巻く環境やシステムが変化すると同じように、医学生の方や希望も変化していきます。その変化を柔軟に受け入れながら、学生・教員・病院スタッフの全員で、より良い医学教育の場を作っていける「架け橋」となれるよう活動していきたいと思っています。

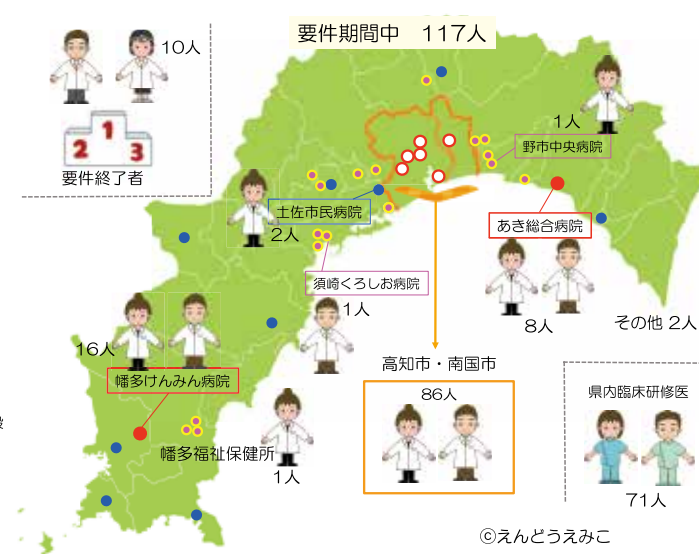
償還免除のための勤務と認められる医療機関
(高知市・南国市以外)



あき総合病院と幡多けんみん病院および地域医療研修協力施設に加えて、高知市・南国市以外にある専門研修プログラム参加施設、公的診療所に在籍すると卒後3年目以降の勤務はすべて免除算定できます。

高知市・南国市の基幹型研修病院(6病院)と指定医療機関(31施設)は、卒後3年目以降の勤務が上限3.5年までしか免除算定できないところが異なっています。(いずれも償還期間が9年間の場合)

奨学金の貸与を受けた若手医師はいま？



71人は臨床研修中です。償還免除要件期間中の117名は希望する専門科で専門医、指導医を目指しています。10名の医師が既に要件期間を満了して活躍しています。

(令和3年4月現在)

1 研修病院見学支援 1人あたり1泊1万円(3泊まで)を助成

高知県内での専門医研修を考えている県外在住の臨床研修医のみなさんが、専門研修病院を実際に見て、知っていただくために、県内の2病院以上を見学する場合に助成しています。

2 臨床研修医確保支援

高知県の基幹型臨床研修病院は県と協力して「高知県臨床研修連絡協議会」を組織し、研修内容の充実を図るためのさまざまな取り組みを行っています。基幹型病院がお互いに協力型病院になったり、研修医が「いいとこどり」できる、レベルの高い研修は魅力的で、もちろん研修医を集めます。また同時に、それぞれの病院の指導体制などが相互チェックされることや、研修医同士が情報交換できることから、健全な研修環境が確保できます。機構は、この活動に必要な経費を助成しています。

高知県臨床研修
連絡協議会の
取り組みは次の
とおりです

- (1) 研修指導医養成のためのワークショップの開催
- (2) 県外臨床研修合同セミナー(レジナビフェア、eレジフェア等)への参加
- (3) 県内臨床研修病院合同説明会の開催
- (4) 医学生・研修医に向けての情報発信
- (5) 臨床研修医の共通オリエンテーション、BLSコース、ICLSコースの開催支援
- (6) 研修医が企画する事業への支援(コーチレジの活動への支援等)

高知県臨床研修連絡協議会

http://www.kochi-mrr.or.jp/~rinsyou_kensyu_kyougikai/



高知県臨床研修ガイドブック

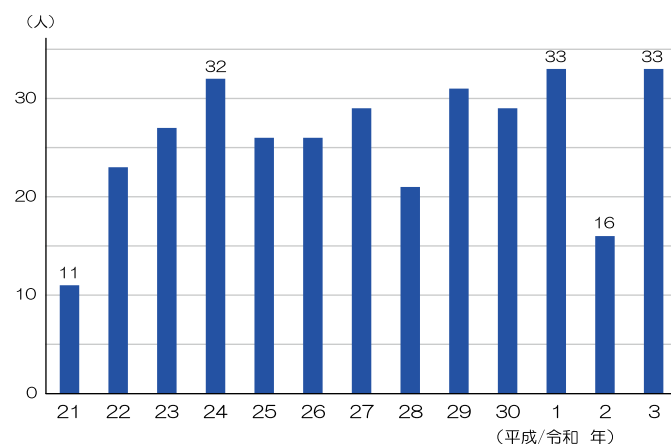
<https://www.kochi-mrr.or.jp/learning/file/HospVisitGuideBook.pdf>



3 地域医療研修プログラム運用支援

平成16年に臨床研修が必修化された時から「本物の地域医療研修を高知県で!」を合い言葉に、基幹型研修病院と地域の臨床研修協力施設とが協力して地域医療研修プログラムを組み立ててきました。自治医科大学卒業の先生方が中心となった臨床研修協力施設では、医療・介護・保健・福祉が一体となった地域医療を学べるスケジュールや研修方略を提供してくれています。紹介を受けて高度医療を提供している側(基幹型研修病院)から見た風景とは違った、医療と共にある暮らしが学べます。機構では、臨床研修医のみなさんが希望する地域医療研修を行えるよう、12ヶ月間のローテーションの作成をお手伝いしています。

「本物の地域医療」県外大学病院等からの受入状況



「医師を育てる」という住民のみなさんの意識も高く、高知の地域医療研修は好評です。(平成16年～21年度「地域保健・医療研修」、平成22年度以降「地域医療研修」)令和元年暮れからのコロナ禍でも、「気づきの機会」、「学びの機会」の提供が続いています。



<https://www.kochi-mrr.or.jp/learning/resident/report.html>

4 地域医療研修者支援

県外研修医1人あたり6万円以内を助成

平成21年度からは、評判の良い「高知の地域医療研修」に、首都圏をはじめ県外から臨床研修医のみなさんが来てくれるようになりました。機構では、高知県内で地域医療研修をする首都圏等の臨床研修医のみなさんに旅費相当の助成金を支給するとともに、所属している病院の臨床研修センターとの連絡、高知空港や高知駅から臨床研修協力施設へのアクセスをお手伝いしています。将来、「見たこともない地域」には行かないでしょうが、「見たことのある地域」の医療には関心を持ってくれるかもしれません。

地域医療研修者支援を利用

首都圏の臨床研修病院
2年目臨床研修医



2年目の10月という研修の終わりが見えてきた時期に地域医療研修をすることは、私にとって大きな価値のある学びでした。外来を自分一人で初めて持った上に、複数の診療を同時進行で進めていくこと、上級医が常に隣りにいるわけではないこと、いずれも不慣れでした。検査を進め、結果を見て方針を判断し、適宜上級医に報告する流れを何度も体験して、少しずつ学ぶことができました。困っている私に直接的な答えではなく、答えにたどり着くための手がかりをくださったことも大いに勉強になりました。また所属の大学病院と比較して、血液検査や画像検査などのハードルが高く感じました。研修初期の頃に『オーバートリアージでもよい、見逃さないことを第一に』と指導されたことがありました。しかしすでにその時期は過ぎており、過不足ない検査が求められていることを学びました。

5 専攻医等に対する奨励金支給 1人あたり30万円を支給

県内の基幹型臨床研修病院で臨床研修を修了し、引き続き県内の医療機関で専門研修を行う医師のみなさんに、診療の傍ら、自主的な研究・研修等に活用していただけるよう奨励金を支給しています。

※自治医科大学医学課程修了者は対象となりません。

6 医師留学支援(専攻医等特別枠) 1人あたり50万円を助成

医師のキャリア形成を応援する医師留学支援事業として、3年目～5年目の専攻医を対象とした特別枠を設けています。条件によっては臨床研修医も利用可能です。専門医になってからの本格的な長期間の留学を待たずとも、国内外の先進的な医療機関にプチ留学することができるのです。

7 ブルーオーシャンの活動支援(コーチレジ)

SEEDとBRIDGE同様に、自然発生的に生まれてきた若手医師の活動があります。それがコーチレジです。そして、若手医師のみなさんには年代によって特色があります。いま(令和4年3月現在)はコロナ禍のために、対面でのイベント等は行えない状況が続いていますが、高知県の研修医、若手医師は代々元気です。『基幹型臨床研修病院は、それぞれがお互いの協力型臨床研修病院にもなってください。"いいとこどり"がしたい』『こんな活動がしたいけど、手伝ってもらえますか?』などなど、若手医師の要望で改善されてきたことが沢山あります。1年、2年上の医師が臨床研修医・学生などを指導する、レジデントクエスト、コーチフェス、サマーキャンプなどのイベントもしかりです。「傍にいた私がまず、同僚のメンタルヘルスの変化に気づきたい」(セーフティスクラム)と考えた世代もありました。「YouTubeで見る身体診察」という本も出版しました。ホームページやFacebook、Instagramによる発信もしています。

機構はお仕着せでなく、世代の自主的な活動に合わせた支援を行っています。

「You Tubeで見る身体診察」

『YouTubeで身体診察を学ぼう』という若手医師の発想は斬新で、好評でした。本書は、看護領域の特定行為研修の参考資料にも「マクギー」、「ベイツ」とともに例示されています。



あの「日経メディカル」にも取り上げられた
コーチレジ

- ・オール高知方式のプロポーザル
- ・女性医師支援も熱い高知県!

高知の女性医師応援イベント「JOY×Full」が、日経メディカルトップページに紹介されました。

8 メンタルヘルス

研修医のみなさん、その研修医の一番近くにいるのは研修医です。機構では、隣りにいる研修医の心の変化に研修医のみなさんが気付いてほしいという思いで、将来の専門性を問わずメンタルヘルスに関する講習会を受講することを推奨しています。研修のストレスを回避するための研修医間の情報共有、先輩、若手医師によるピアサポート活動を応援しています。

1 専門医等養成支援 指導的立場の医師1人あたり500万円以内を助成

専門医を取得したい若手医師のための支援事業です。専門医資格取得に必要な勉強会やセミナーの開催、学会参加等の研修環境を整えてくれる指導者をサポートしています。

専門医等養成支援を利用

高知大学医学部附属病院
藤枝 幹也 教授



約10年間、指導医の立場から本事業を活用して多くの専門医を育成できました。具体的に述べますと、基本領域である小児科専門医13名(うち7名は指導医も取得)、サブスペシャリティ領域では周産期(新生児)3名、小児神経1名、小児循環器1名、血液1名(指導医も取得)、腎臓1名(同)、およびアレルギー1名の各専門医です。専門医を取得した全員が、県内の病院で小児診療の維持と質向上のために尽力してくれています。本事業のおかげで、経験しがたい症例を県外の施設で研修することができ、毎年、各種研修会にも参加することができました。また、高知ギルバークセンターの指導者であるスウェーデン・エーテボリ大学のギルバーク教授のもとに短期留学ができたことも、高知県の発達障害診療に大きく寄与できたと考えます。他県ではみられない素晴らしい取り組みである本事業の利用により、今後も若き有能な医師が増え続けることを希望します。

2 高知家総合診療専門研修プログラム

新しい専門医の仕組み(新専門医制度)が平成30年からスタートしました。その基本領域に、19番目の専門領域として加わったのが総合診療です。高知県は高齢化や過疎化、医療資源の中央集中など多くの課題が全国に先行するところです。県全域をフィールドに、高知大学医学部附属病院が基幹施設となって、総合診療専門医になるための高知家総合診療専門研修プログラムを実施しています。どの都道府県でも総合診療専門研修には1つのネックがあります。総合診療Ⅰ、Ⅱ、内科、小児科、救急医療を経験するためには一定程度の病院ローテーションが必要になり、ローテーションには不安定な身分と給与の問題が付きものです。プログラム期間中の専攻医を機構が雇用することによって、給与・産休・育休等を含めて安定化させ、安心して専門医を目指す環境を提供しています。

<http://kochisogopg.com/>



3 指導医資格取得支援 専門医1人あたり60万円以内(2年まで)を助成

人を指導することは共に育つことです。高知県で若手医師の指導・教育にあたりたい専門医資格取得後2年以上経った、専門医のみなさんを応援しています。指導医資格の取得のための学び、学会参加、論文作成等の経費を支援しています。この事業は、高知県内の指導体制の充実を図ることを目的としていますので、助成を受けた後、助成を受けた年数と同じ期間、県内で就業することを要件としています。

指導医資格取得支援を利用

高知大学医学部附属病院
北川 博之 医師



平成30年、令和元年と元号をまたいで、指導医資格取得支援事業を利用しました。指導医取得のためには、学会発表や研究論文発表が必要です。大都市開催の学会に参加するための航空機や新幹線代、そして宿泊費などは結構嵩みます(宿泊しない強行軍も可能ですが、手術の安全性に支障が出そうです)。また論文投稿のためには、英文校正や出版費用が必要です。本事業を利用して、国際学会参加や、8編の論文発表(英文6、和文2)を行い、日本外科学会指導医と日本消化器病学会専門医資格を取得しました。機構は若手医師の専門医取得事業に続いて、切れ目ないキャリア形成のサポートをしてくれます。ぜひ皆さんも本事業を利用して指導医資格を目指してみませんか？

高知医療再生機構の支援事業を活用して取得した資格

事業名	(単位:件)										計
	平成22年	23年	24年	25年	26年	27年	28年	29年	30年	令和1年	
指導医資格取得支援事業	0	6	9	11	11	6	7	13	12	6	91
専門医等養成支援事業	14	32	57	40	56	58	74	74	84	75	615
専門医等資質向上支援事業	—	6	15	7	10	7	2	0	2	0	49

医師留学支援事業により留学した医師の数(令和4年3月末現在)



4 医師留学支援(海外等) 1人あたり300万円以内を助成

高知県内の医師免許取得後15年以内の若手医師が、資質向上やキャリア形成のために国内外の先進的な医療機関で研修をする際の助成をしています。この事業は、助成を受けた後、1年以上県内での就業を要件としています。

医師留学支援を利用して海外留学

高知大学医学部附属病院
高谷 将悟 医師



令和元年5月から1年間、デンマークのオールボー大学に研究留学しました。無収入での留学でしたので非常に助けられました。医療費は無料でしたが、病院を受診するにも一苦労があったり、異国の地での生活で家族の結束は深まり、非常に良い経験となりました。留学中に娘が生まれましたので、普通の海外留学では味わえないことも経験できました。また、いろんな国からきた人たちと関わり、文化の違いに触れ、自分の価値観は大きく好転したように感じます。帰国の際も、COVID-19による航空機の欠航が相次ぎ、予定より早く帰国しましたが、これも良い経験でした。本事業は私に大きなチャンスを与えてくれました。多くの方が利用して、世界に羽ばたかれることを期待しています。

医師留学支援を利用して国内留学

高知大学医学部附属病院
宮本 雄也 医師



医師7年目の1年間、東京の榊原記念病院に国内留学しました。同病院は循環器疾患を中心に診療を実施しており、カテーテル治療を含めた最先端の治療を行って国内トップクラスの実績を上げている病院です。私は高知出身で、高知県内でしか過ごしたことがなかったため、留学前は不安もありました。しかし、不安を凌駕するような代えがたい経験と少しの自信を得ることができました。また高知県内のみでは得られない、貴重な人とのつながりもできました。留学にあたり、本事業のサポートによって金銭面での不安も少なくなり、留学先での生活・仕事に集中することができました。多くの若手医師が留学し、みんなで高知の医療を発展させていくような環境になるのを楽しみにしています。

5 地域医療研修指導医支援

高知の地域医療研修が充実している理由は、臨床研修協力施設ならびに地域医療研修の指導を行う医師の尽力のおかげです。この地域医療研修を支える医師たちのレベルアップや、指導医間の情報交換を行うために実施する事業の経費を助成しています。地域医療研修協力施設はP3を参照してください。

6 地域赴任医師研修修学金貸与 1人あたり40万円以内を貸与

高知市内・南国市内の医療機関に勤務している医師が、地域医療の核となる地域の病院へ赴任する場合に研修修学金を貸与しています。地域の医療機関で1年以上勤務することにより、償還が免除されます。※自治医科大学医学課程修了者、または高知県医師養成奨学金貸付金等の受給者で勤務義務期間内の方は対象となりません。また、専攻医等に対する奨励金(P6 ⑤)の支給を受けた専攻医の研修修学金は減額されます。

7 高知県臨床研究フェロシッププログラム

幡多地域にある病院の中で診療を行いながら研究マインドを養い実践する、それが高知県臨床研究フェロシッププログラムです。高知県西部の幡多地域で地域医療に貢献しながら、週1日を研究日としてプロテクトすることで、日常診療の中にある疑問を研究で解決し、明日の医療のスタンダードを作っていきます。高知県、高知大学がメインで行う事業で、機構はプログラム期間中の医師の雇用安定化のお手伝いをしています。高知大学の現地メンターや臨床疫学専門家による指導があり、高知大学臨床疫学講座、京都大学地域医療システム学講座とも連携し、高知大学大学院やJohns Hopkins 大学公衆衛生大学院での学びも応援します。

https://www.kochi-u.ac.jp/kms/ff_evnm/cr-fellowship/feature/



8 新専門医制度対応倫理文化醸成支援

新しい専門医の仕組みでは医療安全や感染対策などとともに、医療倫理の継続的な学習が専門医資格取得・更新の要件となっています。いずれもリモート学習も可能ですが、医療倫理を身につけるのは座学では難しく、座学でない学びの機会を見つけることも容易ではありません。機構では、高知大学医学部附属病院に対し、医療倫理研修に必要な経費を助成し、高知県全体の医療倫理のレベルアップに努めています。

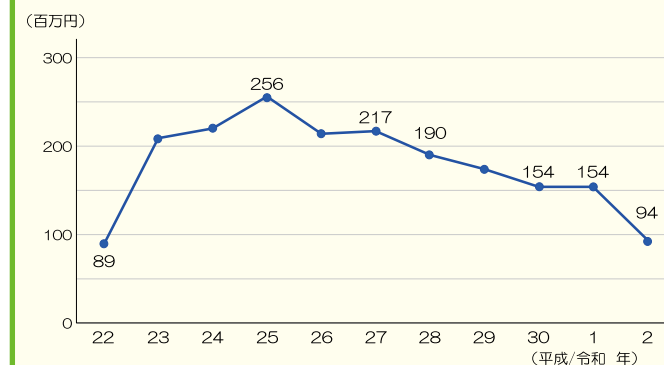
補助事業の概要・要綱

<https://www.kochi-mrr.or.jp/grant/style-dl.html?now>



補助事業の対象となる経費は各支援事業によって異なります。詳しくはQRコードからご確認ください。
●指導医資格取得・専門医等養成支援事業：
学会参加費、出張旅費、書籍・文献購入、文献閲覧、英文校閲料など
●医師留学支援事業：住居費、現地までの交通費、受講料、図書購入費など

参考：医療再生事業 補助事業実績額の推移



平成21年にすべての都道府県に交付された「地域医療再生基金」(5年間限定)の終了後も、高知県の支援は継続されています。令和2年度の執行額は少なく見えますが、コロナ禍による学会開催の減少等の影響でした。今後も1.5億円程度の補助事業が継続される見込みです。

1 医療専門職無料職業紹介

機構は、無料職業紹介事業（平成23年度）、労働者派遣事業（平成30年度）の事業者登録をして、無料職業紹介と医師派遣、医療専門職の就労支援を行ってきました。高知県で働いてみようとお考えの医師をはじめとする医療専門職のみなさんに、県内の医療機関を紹介しています。高知のために尽力いただける方々の来県に向けて、信頼できる情報の提供、紹介に努め、手厚いバックアップ体制を整えています。登録料・紹介手数料などはいただきません。

ステップ1 病院とのマッチングと就労支援

高知県内での就職をお考えの医師のみなさんには、複数の医療機関を見学する医療見学ツアーをお勧めしています。

医療見学ツアーの流れ

- ① **医師** 高知医療再生機構への問い合わせ
- ② **機構** 職員が面談に赴き、就労条件などのヒアリング
- ③ **機構** 希望に即した複数の医療機関をリストアップ
- ④ **医師** 提示リスト（best matches）の中から見学する2、3の医療機関を選択
- ⑤ **機構** 医療機関と調整し、見学ツアーの行程を作成
- ⑥ **医師** 来高して各病院幹部と面接（機構コーディネーターが同行）、the best matchを決定

就職後もさまざまな相談に応じます。

ステップ2 コーディネーターによるサポートと多様な雇用形態

医療見学ツアーの時点から、高知へ赴任する医師の相談窓口となる機構コーディネーターが同行し、赴任のための準備や医療機関との交渉なども円滑に進めます。主な就業プランは2つあります。“就職幹旋”（病院の直接雇用）と“機構の雇用・派遣”です。就職幹旋なら、専門性を活かしながら常勤医として病院のシステムの中で活躍していただけます。すぐに1つの病院に就職するのが躊躇われる場合には、機構が雇用し、「週に5日、1つの病院に」あるいは「2日、3日に分けて複数の施設に」等のパターンで派遣することができます。いずれの場合も、就職後も定期的にコンタクトをとり、課題があれば機構から病院に要望することによって労働環境の改善を試みます。慣れない土地でも雑事に煩わされることなく快適に過ごしていただけます。（派遣の場合、3年以内を目処に、病院の直接雇用を考えることになります）

2 こうち医師ウェルカムネットの運営

高知県内で求人を行っている医療機関の情報を公開しています。診療科目、医療圏や所在地、勤務形態などの項目で情報を検索することもできます。情報は随時更新しており、令和4年3月現在、54医療機関の情報を見ることができます。また「こうち医師ウェルカムネットニュース」を発行しています。地域の医療機関で活躍するIターン・Uターンの医師、診療応援の県外医師などにスポットをあて、インタビューを行っています。高知の住み心地や地域医療について、熱く語っていただいています。これまでに機構を介して就職した医師の総数は58人です（令和4年3月現在）。なお、平成29年までは県外の大学に設けた寄付講座からの来県医師を含んでいます。



こうち医師ウェルカムネット

http://www.kochi-mrr.or.jp/~ishi_welcome_net/



こうち医師ウェルカムネットニュース（9号）

<http://www.kochi-mrr.or.jp/working/doctor/welcome-news.html>

3 地域赴任医師研修修学金貸与

県外の医療機関から
高知市内・南国市内の医療機関へ赴任

30万円

県外の医療機関から
地域医療の核となる地域の病院へ赴任

80万円

県外の医療機関から、高知市内・南国市内の医療機関および地域医療の核となる医療機関へ赴任する医師のみなさんに、研修修学金を貸与しています。1年以上勤務することにより、償還が免除されます。

4 女性医師等復職支援

出産、子育て、病氣療養、パートナーの転勤・留学、あるいは介護などによって、一時的に仕事を離れていた女性医師等のみなさん向けに、復職のための相談窓口を設けています。働きやすい医療機関に関する情報を機構コーディネーターがお届けします。また希望があれば、復職に向けてのスタートアップ研修などができるよう各医療機関と調整を行い、研修環境の整備も支援しています。高知県医師会とも連携して活動します。

5 医療勤務環境改善支援センター

高知県医療勤務環境改善支援センターとして、医療機関が行う医療従事者の勤務環境改善に向けた取り組みや医師の働き方改革への取り組み、医療勤務環境改善マネジメントシステムの導入等を、専門アドバイザーの派遣などにより支援しています。また、医療機関の勤務環境改善や労務管理についての相談窓口を設置するとともに、研修会の開催や役立つ情報をニュースレターで提供しています。

6 認定看護師資格取得支援

ワークシェアリングをはじめとする勤務環境の改善、そして何より看護師の資質向上のためには、認定看護師などの資格取得が必要な時代になりました。機構では平成23年度から早々と、認定看護師の資格を取得するために必要な研修参加費、滞在費、交通費などの助成を始めました。当初は、所属病院からの支援が乏しいこともしばしばでしたが、「所属病院がサポートするなら機構も支援する」スタンスで病院に働きかけて、看護師のキャリア形成に資する環境を整えてきました。認定看護師は、診療報酬につながるものも多くなっています。現在59名の方が認定看護師資格を取得されています。

※大学院入学が必要となる専門看護師については対象となりません。

認定看護師資格取得支援を利用

大井田病院
訪問看護認定看護師



私は認定看護師資格支援事業によって、聖路加国際大学教育センターで学業に専念することができました。職場を休職し通学するため、生活拠点が2か所となり、経済面での不安が強く困っていました。この事業で研修参加費や滞在費、交通費などの支援を受けることを病院から知らされた時、ホッとしたのを思い出します。なかには居住地域の助成制度を利用している県外の受講生もいて、制度が少しずつ広がっていることをうれしく思いました。地域貢献をすることで返還不要であることは、多くの看護師が専門的な知識を習得できる機会につながると実感しています。今後は在宅で暮らすことを選択した療養者や家族を、多職種と連携し地域で支える要として活動を続けたいです。

認定看護師資格取得支援事業で認定された看護師の数

5人 1人

認定資格（看護）	救急	皮膚・排泄ケア	集中ケア	緩和ケア	がん化学療法	がん性疼痛	訪問	感染管理	糖尿病	不妊症	新生児集中ケア	透析	手術	乳がん	摂食・嚥下障害	小児救急	認知症	脳卒中リハビリ	がん放射線療法	慢性呼吸器疾患	慢性心不全	精神科
認定者数	1人	1人	2人	2人	1人	1人	1人	2人	2人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	2人	2人	1人	1人	2人	2人

平成23年から令和元年までの9年間に59人の認定看護師が生まれました。
（うち4人はコロナ禍の影響で認定待ちになっています）

（令和4年3月現在）

7 看護職員・医療スタッフ研修派遣支援

安全で質の高い医療を提供する体制を整えるため、看護師や他の医療スタッフが先進的な医療機関で研修するための費用を助成しています。令和元年度からは特定行為を行える看護師を育てたい医療機関に対して、「特定行為に係る看護師の研修制度」のサポートも開始しています。

新しい医療・保健サービスのあり方を研究するとともに、健康的でよりよい生活習慣を実現するための情報解析や相談を行っています。

① 医療・保健情報の集計・解析

データに基づいた医療・保健活動をサポートするため、地域医療や特定健診・特定保健指導などの集計や解析を行い、理解を助ける資料を提供しています。現在は脳卒中患者実態調査のデータ集計を行っています。

2 画像診断支援サービス

画像診断医が不足する地域をサポートするため、遠隔画像診断システムを活用して地域の画像診断を支援しています。

③ 看護ニーズへの対応（医療機器共同研究開発）

(1) スタッキングカート

看護師の多い日勤帯は、PCを載せてベッドサイドで看護記録を記入します。針廃棄容器や速乾性擦式手指消毒液、処置具も載せられます。静音キャスターで夜間の使用も気になりません。人も仕事も少なくなった夜勤帯は、ナースステーション周辺にコンパクトに収納できます。



(2) 後方連結型点滴スタンド

どのメーカーの医療用車椅子にも簡単に後方に連結できる車椅子連結金具ユニットが主体です。点滴スタンドとして使えるガートルースタンドと合わせて使用することも、既存の点滴スタンドと連結することも可能です。移送時の点滴棒は患者さんが持つか、あるいは看護師が片手で支えるか、いずれにしても不安定、心配な存在でした。こんな不安が解消されました。輸液ポンプも看護師側から簡単に操作できます。



高知大学医学部附属病院看護部、泉株式会社と共同開発。いずれも泉株式会社から販売しています。
 泉株式会社 https://izumi-cosmo.co.jp/japanese/ji_jyushi.html



4 高知県救急医療情報連携システム（ICTによる地方型救急医療支援）

高知県の救急医療の充実を図るために、国立情報学研究所の協力を得て搬送時の情報連携を支援するシステムを開発しました。救急現場の画像や正確な患者情報が救急医療機関に伝送され、より適切な救急処置が可能になります。電波の不感知地域があっても通信可能な、地方対応の工夫が凝らされています。併せて、情報連携を行うための人材として、「CS(コミュニケーション・スペシャリスト)」の育成事業を行いました。救急隊および医療現場の声を取り入れ、システムの開発・構築を行ったもので、地方の実態に即した医療情報連携となっており、本システムはMCPC award 2012特別賞を受賞しました。

この画像伝送システムは、平成27年度から高知県が運用する救急医療・広域災害情報システムの中に発展・応用されています。機構は関連機器の保守点検を行っています。

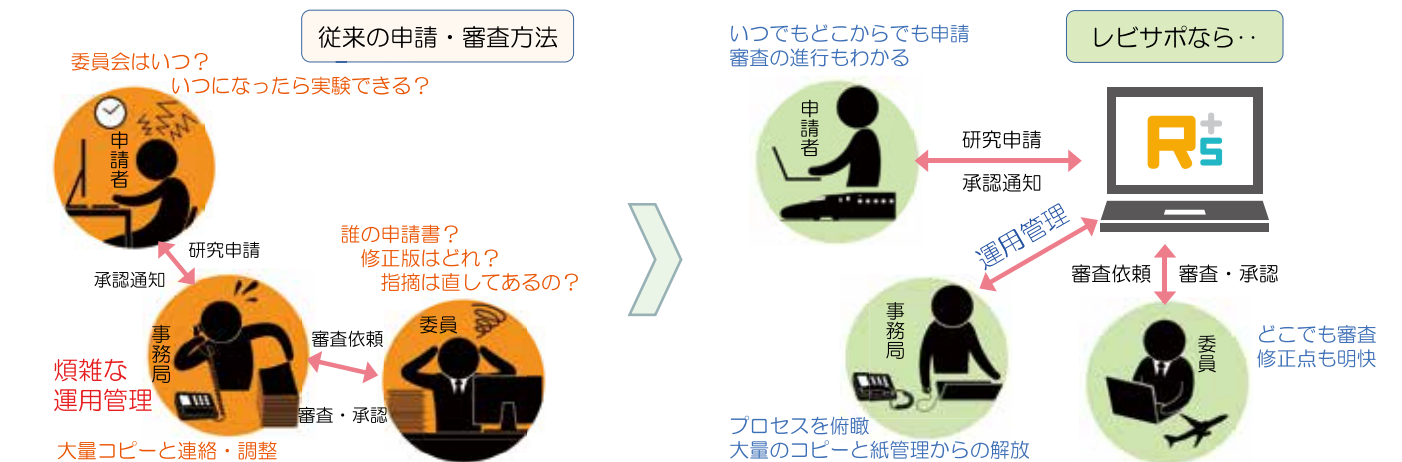


<http://www.mcpc-jp.org/award2012/>

医療・医学研究を円滑に進めるため、システム開発を通じた研究支援を行っています。

1 認証型web申請・審査システム(レビスポ)

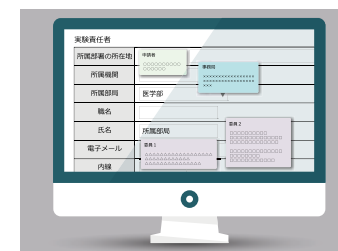
倫理審査、動物実験審査、組換えDNA実験審査といった、医療・医学研究に欠かせない申請や承認審査について、簡潔な手続きや安全な情報管理を実現するためのwebシステムを提供しています。研究者それぞれの役割に即したアクセス権限を付与することで、申請書の情報を複数人で共有できます。スピーディな審査が、迅速な研究スタート、研究成果に繋がります。



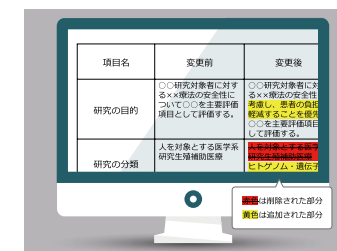
データの巻き戻り（先祖返り）やうっかり上書きなどを防ぎ、データの「正確性」が向上します。また、組換えDNA実験と動物実験など、関係の深い実験の申請書をリンクさせて運用することが可能です。

そのほかにもレビスポには便利な機能が満載

- ① コメント付箋を自在に貼付 ② 修正過程を明確に



指摘したい箇所に付箋を貼れるのでアドバイスがしやすく理解も容易



削除や追加の部分が色分けして表示されるので、修正プロセスが一目瞭然

- ③ 提出期限通知機能
中間や最終報告の提出期限を自動でメール通知
- ④ 必須項目入力チェック機能
記入漏れのない申請書の作成を支援
- ⑤ 申請書類の「コピーして新規作成」機能も標準装備
- ⑥ 実験室図面添付機能
リンクした実験室マップをクリックするだけ
- ⑦ 申請書一覧管理機能
To Doを一目で認識

★これまで学内・社内で運用されてきた申請・審査プロセスや様式を変更することなく、カスタマイズが可能ですから、「いつもの書式」が使えます。

レビサポの導入実績

動物実験申請システム
組換えDNA実験システム
倫理審査申請システム
RI及びX線装置申請システム
病原体申請システム
ほか8システム



毎年2~4大学/施設に導入され、14大学、6企業にご利用いただいています。

レビサポ
<http://revisp.kochi-mrr.or.jp/>



Coordinated
チェックする
負担の大幅軽減

Accessible
申請・審査が
どこでも

Unified
紛失や改竄のない
一元管理

Reliable
研究者目線で
信頼できる

Smart
いつもの様式で
混乱なし

高知医療再生機構のルーツは、高知大学病院発のベンチャー企業「高知予防医学ネットワーク」(平成17年3月設立)です。予防医学ネットワーク事業部と研究支援事業部は、高知予防医学ネットワークの志と事業を引き継いでいます。

高知医療再生機構にも歴史が出来ました

高知で働くために「高知家をもっと知る」

これまでの取組みをご紹介します。

1 医療再生事業部

1) 安芸保健医療圏における連携体制

県東部、安芸保健医療圏での医療連携をスムーズに行うための体制を構築し、病院GPの育成拠点の整備を支援しました。(安芸保健医療圏地域医療ネットワーク事業)

2) レジデントハウス 南風(みなかぜ)(平成24年)

高知県内の研修医の宿泊棟および若手医師が、シミュレーターで技術を学べる施設として、レジデントハウスの建築・整備を支援しました。

3) 高知県立あき総合病院(平成24年～26年)

あき総合病院の建設費、高度医療機器整備費、医師公舎の建設費を助成しました。病院GPのキャリア形成拠点である、あき総合病院は県内外からの研修医を受け入れています。

4) これまでに実施・終了した医療再生事業部 補助事業

4つの事業が役割を終えて終了しています。

事業名	実施期間	事業概要
指導医招聘確保支援事業	H22～25年	県内のキャリアアップ体制の充実のために、指導医を県外から招聘・採用するための費用を支援
専門医等資質向上支援事業	H23～30年	臨床経験年数が概ね16年以上の、専門医等の資格を有しない医師が、新しい資格取得を目指す活動を支援
専門医等不足分野支援事業	H22～27年	指導医の招聘・確保が困難、かつ確保・養成が喫緊である分野の医師の増加を図る、病院の枠組みを超えたセミナー(若手医師対象)の実施を支援
看護職員・コメディカル職員研修支援事業	H22～27年	多職種協働やチーム医療を促進させるため、県内の医療従事者で構成する団体等が、自主的に団体の枠を超えて企画する研修会等を支援

高知大学病院レジデントハウス



レジデントハウス内にスキルズラボを併設しています。予防医学ネットワーク事業部、研究支援事業部もレジデントハウス内で業務を行っています。

あき総合病院



2 予防医学ネットワーク事業部・研究支援事業部

1) 栄養・保健指導技術の向上に関する研究事業

健診や栄養管理・指導情報の管理・解析手法の開発を通じた、地域栄養ケアサービスシステムの構築や指導システムの開発をしました。

2) 市町村での栄養相談

さまざまなライフステージの方々の、健康的でよりよい食生活の実現を支援するため、予防医学の観点から、乳幼児健診における栄養相談、離乳食教室、疾患別の栄養相談や特定保健指導の講習などを行いました。

3) 高齢者の健康的な生活支援に関する研究事業(退院支援ソフト)

高齢者の生活状況等の情報に基づく、退院後の「ふさわしい居場所」の決定を支援するシステムを開発しました。

4) 地域ICT利活用による医療連携ネットワーク構築事業(幡多事業)

高齢先進地の高知において、医療と介護の情報連携を実現するために、それぞれの高齢者にとってふさわしい居場所の選定の支援手法の利用、そして医療・介護従事者の育成やスキルアップの新しい枠組みを提案しました。

5) 人文社会学系学部のための認証型web申請・審査システムの開発

情報システム研究機構新領域融合センターの人間社会データ共同利用(曽根原リーダー)と共同して、「人を対象とする研究の倫理審査システム」の製作を検討しました。(平成28年度)

人文社会学系の、人間社会データを活用して行う研究の基盤として利用可能と考えられます。

6) 高知県の医療関連システムの運用保守

こうち医療ネット映像伝送システムにおける救急車内動画カメラシステムの機器やソフトウェアの保守業務、また、県内の医療機関の電子カルテ情報を県外にバックアップするシステム(高知県診療情報保全基盤整備事業システム)の保守業務を、令和3年度まで行ってきました。こうち医療ネット映像伝送システムを運用する医療機関の関連機器保守業務は継続しています。

高知の医療現場に関する情報を提供しています！

1 こうちの医療RYOMA大使

県外で活躍する、高知県ゆかりの著名な医療関係者の方々に高知県が「こうちの医療RYOMA大使」を委嘱し、高知県の取組みなどの情報を提供・発信していただいています。

◎「こうちの医療RYOMA大使」の人数 19人(令和4年3月現在)

こうちの医療RYOMA大使

高知

Kochi

太郎

Taro



〒780-8570
高知市丸ノ内1丁目2-20 高知県庁本庁舎4階
高知医療再生機構医療再生事業部
TEL 088-822-9910 FAX 088-855-5881

2 情報と連絡先

高知県(高知家)

<https://www.kochike.pref.kochi.lg.jp/~top/>



高知県(医療政策課)

<https://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/131301/>



高知県臨床研修連絡協議会

http://www.kochi-mrr.or.jp/~rinsyou_kensyu_kyougikai/



高知県医療勤務環境改善支援センター

<https://www.kochi-mrr.or.jp/kinmukankyokaizen/>



高知諸診医会

facebook「高知諸診医会」

高知県女性医師復職応援サイト(JOYサポネット)

<http://joysaponet.kochi-mrr.or.jp/>

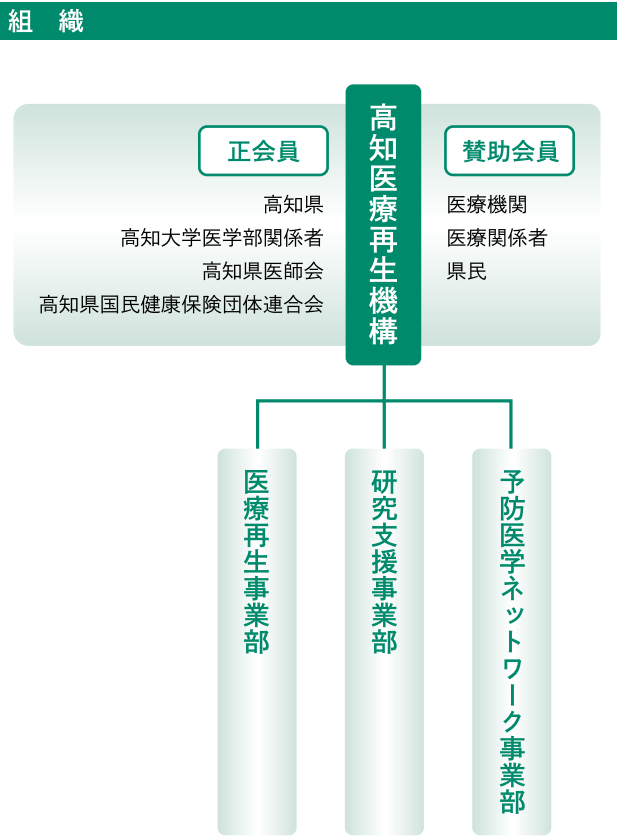


高知地域医療支援センター

<http://www.cmsc-kochi.jp/>



※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。



名 称	一般社団法人 高知医療再生機構	沿革等	
所在地	〒780-8570 高知市丸ノ内1-2-20 高知県庁本庁舎4階	平成17年3月 高知大学に有限責任中間法人 「高知予防医学ネットワーク」が発足	平成22年4月 医療再生事業部を高知県庁本庁舎内に設置、 予防医学ネットワーク事業部・研究支援事業部 は高知大学岡豊キャンパス内で活動を継続
設 立	平成22年2月	平成21年6月 法人化制度の見直しを受け 一般社団法人に移行	平成24年4月 予防医学ネットワーク事業部の 「高知県救急医療情報連携システム」が MCPC award 2012 特別賞を受賞
役 員	理事長1名 副理事長1名 専務理事1名 理事6名 監事2名	平成22年2月 名称を「高知医療再生機構」に改称 高知県が事業運営に参画	平成28年3月 高知医療再生機構の5年間の活動を 振り返る活動報告会を開催



高知家の家族になっただけの医師を募集しています